

まち歩き気分!

え

ん

で

こぼなし
小話



第1回 下町地区 湊稻荷神社(中央区稲荷町3482)

享保元年(1716)に創建したと伝えられる神社です。かつては港の近くにあり、船は神社の森を目当てにして入港したといわれています。このため、航海の無事を祈る船乗りをはじめ、船宿がある花街で働く女性たちにも信仰を集め、別名「道楽稲荷」とも呼ばれています。



ここには、全国的にも珍しい回る狛犬、「願懸け高麗犬」=写真右=があることで知られています。かつて花街の女性たちは、船乗りたちとの別れを惜しみ、ひそかに高麗犬の向きを変えて、海が荒れて出港できなくなるよう祈願したといわれています。いつしかここ

は、さまざまな願いを持った人が訪れるようになりました。男性は向かって右、女性は向かって左の高麗犬を回しながら願い事をする、成就するといわれています。 同神社 (☎ 222-6549)



※掲載している写真は、過去のえんでここで撮影したものです。



ガイドさんの **ミニ** 解説

新潟シティガイド 渡辺 博さん



この神社は、新潟甚句の中に「下の新地の道楽稲荷 おらも2、3度だまされた」という歌詞が残るほど有名です。また、女性から船乗りたちへ、「情があるなら 冬がれ三月 花の3月誰も来る」、つまり、「私を思うなら、誰でも来ることができる春(花の3月)ではなく、冬の3か月間(冬がれ三月)に来てください」という返し歌のようなものも残っています。このような言い伝えが多く残る湊稲荷神社は、ガイドとしても興味深いですね。